

[横浜能楽堂]
令和7年度業務計画及び収支予算
[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

※ 文中の事業欄において、
●:主催事業 ○:共催事業
を示します。
※ 文中の達成指標欄において、
□:定量的指標 ■:定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施 設 名	横浜能楽堂
所 在 地	横浜市西区紅葉ヶ丘 27—2
構 造 ・ 規 模	鉄筋コンクリート造 地上2階地下2階建
敷 地 ・ 延 床 面 積	延床面積 5,695.93 m ²
開 館 日	1996年(平成8年)6月 28日

2 指定管理者

法 人 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所 在 地	横浜市中区山下町2番地
代 表 者	理事長 近藤誠一
設 立 年 月 日	平成3年7月 10日
指 定 期 間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで
現 指 定 管 理 者 の 管 理 運 営 開 始 日	平成8年6月 28日

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

横浜能楽堂は、能楽を中心とした古典芸能の専門施設として古典芸能の普及と振興を通じて地域に貢献し、市民に信頼と期待を寄せられる横浜にとって欠くことができない拠点施設となることを目指します。これまでの運営経験とノウハウを活かし、次の5つの方針で施設の管理運営と事業実施に取り組みます。

1. 横浜能楽堂ならではの事業企画による能楽の普及と新たな観客の創造

能楽ファン向けの本格的な公演や初心者でも楽しめる工夫を凝らした普及公演、またワークショップや能楽講座など多彩なラインナップで幅広い観客の期待に応える事業を実施します。

2. 次世代育成事業の実施と次代を担う人材への働きかけ

学校や地域と連携し、子どもの創造性や感受性を育む事業を実施します。事業の企画力を担保するために職員の専門能力を高めます。

3. 利用者ニーズに沿った貸館対応と広報による施設の利活用の促進

稽古や発表会でも使いやすい施設となるように利用者の利便性を高め、また効果的なPRにより利用者を増やします。

4. 能楽堂の価値の発信を続け、エリアの魅力づくりにも貢献

文化財としての能舞台の保存と活用のバランスを取りながら、見学会等を通じて能楽堂という建物自体の価値を高め、能楽堂ファンを増やします。周辺文化施設と連携し、紅葉坂エリアの魅力づくりにも寄与します。

5. 施設の安全安心を確保し、安定的な経営を実現

施設の適切な管理、効率的な業務の実施、財源の確保、職員の効果的な配置により、施設経営の基盤を整えます。

(2) 令和7年度の業務の方針

ア 全体について

休館期間中の2年目となります。前年度に続いて、市内各地での能・狂言の普及活動を中心に行っていきます。令和6年度に10区で実施した「18区つながる能楽プロジェクト」を、今年度は8区で実施します。具体的には、区民文化センターなどの施設や団体などと協働し、その地域の特性を活かした内容の公演や、講座・ワークショップを実施します。障害の有無にかかわらず能楽を楽しめるよう「バリアフリー能楽ワークショップ」を実施するほか、こどもを対象にした公演やワークショップ、イベントを実施します。

能・狂言をより多くの方に知っていただくために、みなとみらいのランドマークプラザでの、OTABISHO 横浜能楽堂の運営を継続します。能面、装束などの展示だけでなく、体験講座の実施を通して、能・狂言を知ってもらい、より興味をもってもらい、令和8年度の横浜能楽堂の再開館での来場につなげます。

休館まで横浜能楽堂に来館していた顧客層に向けては、横浜能楽堂ならではの企画性のある公演や、狂言堂を継続して実施します。

令和8年度の再開館に向けて、運営体制の見直しや、移転・開館準備を遅滞なく行います。

横浜にとって欠くことのできない古典芸能の拠点施設として、休館期間中に市民の認知度を更に高め、信頼と期待を寄せられるよう事業や運営に取り組んでいきます。

イ 使命1 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展に寄与する

横浜能楽堂ならではの企画性を活かした事業により、古典芸能の魅力を現代、および後世に伝えています。「敷居はひくく、奥行きはふかく」をコンセプトに、鑑賞、体験、学びを通して、新たな観客や能楽ファンを創造します。

ウ 使命2 能楽等に携わる人材を育む

子どもたちの創造性や感受性を育む事業に取り組みます。また次代を担う若手の演じ手をワークショップ、大学連携事業に起用し支援します。横浜能楽堂の事業を推進するための専門職員の育成を図ります。

エ 使命3 能楽等をはじめとする市民の活動の場となる

休館期間中のため、活動場所の提供はできませんが、障害の有無にかかわらず共に古典芸能を楽しむ機会を創出するために、どなたでも参加できるワークショップを実施するほか、利用者とのネットワークを継続し、お稽古を始めたい人へ情報を提供します。

オ 使命4 能楽等や施設の魅力の発信を行う

横浜能楽堂の紹介動画や能舞台模型などを仮拠点に設け、能楽と能舞台、その価値の発信を強化し、市民にとって誇れる地域資源となることを目指します。

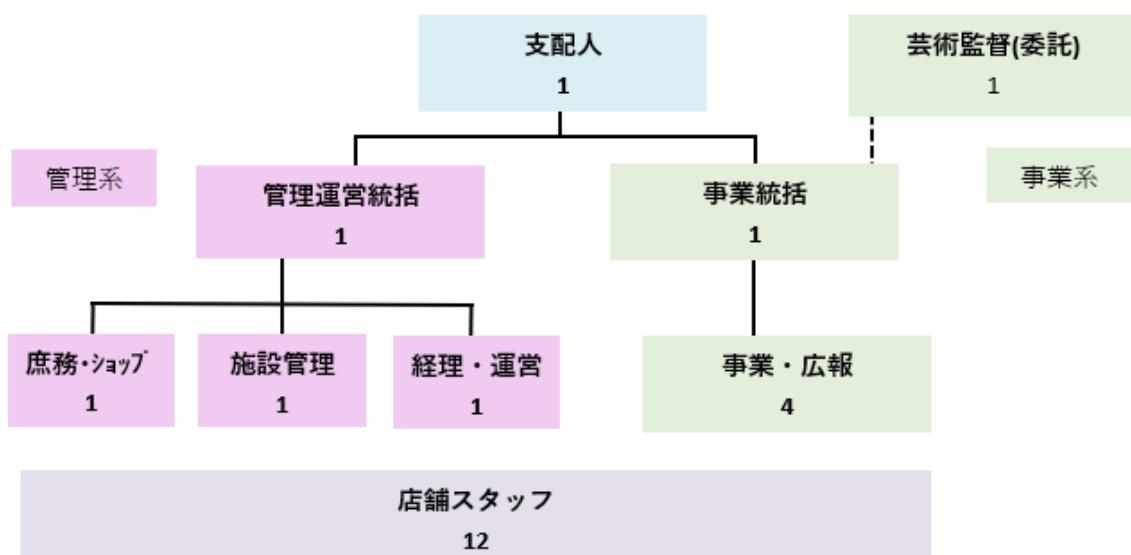
カ 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う

休館期間中ならではの能舞台にとらわれない企画などに積極的にチャレンジするなどし、事業人材の育成をしていきます。また、OTABISHO 横浜能楽堂では、ショップの売上で一部の運営費を賄うなど、自主財源の確保に努めます。

キ 使命6 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

コロナ禍の経験を活かし、新しい生活様式に対応した手法のもと、感染症対策と社会経済活動の両立を図り、横浜能楽堂としての活動を継続します。

4 運営組織の構造、人員配置



横浜能楽堂全体の統括責任者として“支配人”を配置し、施設経営全体を統括します。“芸術監督”を配置し、能楽・古典芸能の専門施設としての芸術面での監修責任者とします。

支配人の下に、経理・運営、施設管理、庶務・ショップを実務統括し、支配人を補佐する“管理運営統括”を配置、“事業統括”を置いて事業を担当します。日常の運営は支配人が統括しますが、勤務シフト上不在の場合には管理運営統括が代行し、有事の際には支配人及び財団事務局等と連携し、迅速に対応します。

5 令和7年度の業務の取組

(1)能・狂言、その他の古典芸能の振興事業

休館中は、「つなぐ・つながる」をコンセプトに、事業を実施します。主催事業では、横浜能楽堂ならではの企画力を活かし、能楽愛好者に横浜能楽堂の存在感をアピールする公演を実施します。

企画公演として、地元神奈川の古刹遊行寺にゆかりのある能に、遊行寺の踊り念仏を組み合わせた公演と、令和6年度に琉球舞踊公演を実施した鶴見区で、戦後盛んに公演が行われたという沖縄芝居の公演を実施します。また、港南区にある横浜能楽堂の能舞台を作った加賀前田家にゆかりのある菅原道真を祀る永谷天満宮にちなみ、道真公を題材にした芸能を多角的に見せる公演を実施するなど、より地域を意識した事業を実施します。様々な顔をもつ横浜の地域を古典芸能からアプローチし、親しんでいただくとともに、ここでしか見られない舞台を実現します。

令和4年度から製作している若手狂言師に密着した動画「狂言の未来～第2日曜日を彩る狂言師たち」を製作し、動画からの観客の流入にも取り組みます。

再開館時に横浜能楽堂に足を運んでいただけるよう、能舞台の紹介や再開館時の公演情報の周知などにも取り組みます。

(2)能・狂言、その他の古典芸能の普及事業

こどもを対象とした狂言の公演及びワークショップ、学校や教員と連携した事業は、休館中も継続して実施します。区民文化センターや公会堂で実施する横浜狂言堂は、その地域の方に見ていただけるよう施設管理者、区役所と協働し広報をしていきます。障がいのある方にも参加いただけるワークショップを実施します。

令和7年に、横浜能楽堂の能舞台は、創建150年を迎えます。明治、大正、昭和、平成、令和と5つの時代で、大震災や戦禍を超えて現代に生き続ける能舞台の歴史を振り返る講座などを開催し、文化遺産としての価値をより多くの方に知っていただくことで、再開館で、より市民の方に親しんでいただく流れを作ります。

OTABISHO 横浜能楽堂では、能・狂言を身近に感じることのできる展示を継続します。能装束は、2か月に1回、能面・狂言面は、1か月に1回の頻度で展示替えをし、何度も訪れていただける空間を作ります。また、興味を持った方に向けて、より能・狂言を知っていただけるよう講座を実施します。また、みなとみらいの近隣で働くビジネスパーソン向けに、ビジネスシーンで役立つように入門よりも内容を深めた連続講座を実施し、今までの観客層とは異なる層に能・狂言の魅力を伝えます。

(3)施設管理

大規模改修工事中は、必要な修繕や定例の設備保守について設置者と協議連絡のうえ適切に執り行います。また、工事完了・引き渡し後のスムーズな運営・再開館に向けて、工事定例会等で改修状況の情報収集や連絡を密に行うほか、機械警備導入について検討・準備を行います。

(4)収支

令和7年度は、助成金やOTABISHO 横浜能楽堂でのオリジナルグッズ等の販売など指定管理料以外の収入の確保による自主財源の増に取り組みます。

(5)各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和7年度は、業務計画書や完了確認表など各種帳票の作成を適切に実施します。

(6)その他

令和7年度も引き続き、プロデューサー(古典芸能)など職員の人材育成のよい機会と捉え、新たな事業の形態の開発などに取り組みます。また大学等との連携も実施します。従前の施設利用者に対しては、施設利用受付についての案内を送るほか、他施設での活動に際し、能楽特有の備品を貸し出すなど、サポートを実施します。

また、ホームページをより見やすく、職員が更新作業をしやすいものに更新します。

※ 5(1)～(6)の具体的な取組内容や指標は、指定管理業務計画表に記載します。

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命1 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展に寄与する

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	事業のメニューの実施数	7メニュー	8メニュー	8メニュー			11メニュー	
2	自主事業の入場者数	9,432名	7,600名	8,387名			9,500名	
3	入場者の満足度(アンケート調査)	4.67	4.5以上	4.68			4.5以上	
4	総来場者数	13,790名	13,600名	13,972名			18,000名	
5	各事業のターゲット設定及び事業参加者数に対するターゲットとなる参加者の割(アンケート集計)	①鑑賞経験あり	88.7%	特別公演&企画公演70%以上	86.9%		特別公演&企画公演70%以上	
		②鑑賞経験2回以内、初来館	27.5%	普及公演20%以上	20.5%		普及公演30%以上	
		③実技初心者	98%	能楽ワークショップ、講座50%以上	96%		能楽ワークショップ、講座50%以上	
6 ★	「バリアフリー能」への鑑賞サポートツール導入数	37件	35件以上(2年間累計)	(実施なし)	(実施なし)		100件以上(5年間累計)	
7 ★	公演事業の設定座席数に対する入場率	83.8%	80%以上	92.6%			85%以上	
8 ★	解説動画視聴数	5,201回	2,000回以上(2年間累計)	14,054回(累計)			5,000回以上(5年間累計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	入場者の声(アンケート及びインタビュー調査)	R4実績	アンケート自由記入欄意見を全員で回覧、担当にて課題抽出
		R5達成指標	来場者インタビュー、アンケート自由記入欄意見の運営への反映
		R5実績	YouTube動画に対するアンケート自由記入欄意見を参考に、中締め公演に絡めて「みどころ」及び「横浜能楽堂の思い出」のインタビュー動画計14本を配信。
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	来場者インタビュー、アンケート自由記入欄意見の運営への反映
		R8実績	
2 ★	「バリアフリー能」に関する福祉団体等インタビュー調査	R4実績	調査を元に既存サポートに加え、「なんでもシェア会」や送迎車サービスを実施
		R5達成指標	サポート導入に反映
		R5実績	休館のため実施なし、R6以降WSの際実施。
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	サポート導入に反映、被評価
		R8実績	

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

能・狂言の普及活動に重点的に取り組みます。今年度は今までターゲットとしてこなかった30代から50代のビジネスパーソンに向けた講座を実施することで、新たな顧客の創造に取り組みます。近隣の企業関係者が利用するwebサイトや、ランドマークビル内の周知などターゲットに合わせた周知を行います。

また、近隣のホテル、旅行会社などと提携し、新たな顧客の開拓に取り組みます。

(2) 使命2 能楽等に携わる人材を育む

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	次世代育成を目的とした事業の実施回数	11回	計9回	12回			計10回	
2	参加者の満足度(アンケート調査)	4.84	4.5以上	4.79			4.5以上	
3 ★	「こども狂言堂」設定座席に対する入場率	87.1%	90%以上	91.3%			90%以上	
4 ★	「先生のための狂言講座」の参加者数	87名	100名以上	70名			120名以上	
5 ★	学校見学会、教育旅行の問い合わせ数	10件	3件	6件			5件	
6 ★	狂言「柿山伏」を使った取組	準備中	3件 (2年間累計)	準備中			5件 (5年間累計)	
7 ★	プロデューサーによる「WEB版研紀要」掲載	ブログ執筆済、掲載準備中	4本以上 (2年間累計)	2本			10本以上 (5年間累計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の声(アンケート及びインタビュー調査)	R4実績	アンケート自由記入欄意見を全員で回覧、担当にて課題抽出
		R5達成指標	インタビュー/アンケート自由記入欄意見の運営への反映
		R5実績	アンケート自由記入欄意見を全員で回覧、「先生のための狂言講座」についてR6年度は従来の学校への案内に加え、SNS等での広報拡大を検討します。
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	インタビュー/アンケート自由記入欄意見の運営への反映
		R8実績	

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

今年度も子どもの創造性を育む次世代育成事業を実施します。子ども向け公演を実施し、他区ワークショップ、学校アウトリーチ、教員向け講座、相談対応に加え、狂言「柿山伏」のオンライン活用、OTABISHO 横浜能楽堂への学校見学会の受け入れなど、教育機関などとの連携強化に重点的に取り組みます。また分かりやすい公演プログラムの作成、ホームページでの能楽に関する研究紀要(番組解説等)の公開や解説動画制作(使命1にも該当)を通じて、職員の専門能力の向上も図ります。

(3) 使命3 能楽等をはじめとする市民の活動の場となる

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	貸館利用者数	34,750名	34,000名	41,564人			38,000名	
2	利用者の満足度(アンケート調査)	アンケート未実施	施設の快適性への満足度4.0以上	4.6			施設の快適性への満足度4.0以上	
3	貸館利用の相談/広報支援件数	10件	相談10件以上	10件			相談20件以上	
		23団体、59件	広報支援20団体、30件以上	24団体、102件			広報支援20団体、30件以上	
4 ★	本舞台、第二舞台の利用率(日換算)	40%	本舞台39%以上	53%			本舞台40%以上	
		60%	第二舞台52%以上	67%			第二舞台55%以上	
5 ★	利用料金収入額	12,989,435円	11,100千円以上	13,715,025円			16,000千円以上	
6 ★	新規利用向け割引制度利用実績	12件	20件以上(2年間累計)	3件見直し			60件以上(5年間累計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者の状況についての現状把握(利用者との意見交換等)	R4実績	稽古場代替施設に関するヒアリング:19団体
		R5達成指標	利用者インタビュー:年10団体以上(新規団体を含む)
		R5実績	稽古利用団体にアンケート実施:16団体 利用手続き変更について:「書類が増えて煩雑になった」という意見はあったものの、「事前に利用内容が確認できてよい」という意見が上回りました。 利用について:「開催事業に関わらず、なるべく会議室等の利用が可能であることを願っています」といったご意見に対し、再開館時の運用を柔軟に検討していきます。
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	利用者インタビュー:年15団体以上(新規団体を含む)
		R8実績	

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

休館中のため、特に利用促進を前提とした取り組みは行いませんが、OTABISHO 横浜能楽堂で横浜能楽堂の取組を紹介するほか、市内各所での公演の際、紹介映像を流すなどして、再開館後に向けた施設の周知に取り組みます。

また、利用団体とは定期的に連絡を取るなど、関係を維持し、能関係の習い事に興味のある方がいた場合団体を紹介したり、他施設を利用する際、能楽堂独特の道具の貸し出しを行うなどして、活動を支援していきます。

能・狂言を見る機会のない子どもに鑑賞の機会を提供する「もう1枚のチケット」事業は、需要に合わせて見直しを行います。

また、「バリアフリー能サポートツール研究会」では、専門家や当事者とのディスカッションを通じて新規ツールについて研究し、再開館後のサポート拡充を図ります。

(4) 使命4 能楽等や施設の魅力の発信を行う

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	媒体ごとの 広報実績数	新聞・雑誌	49回	35回 以上	72回		50回 以上	
		広報よこはま	5回	6回 以上	4回		6回 以上	
		広報よこはま 西区版	7回	6回 以上	4回		6回 以上	
		地域情報誌	36回	15回 以上	6回		20回 以上	
		SNS (Twitter→ X、Facebook、 Instagram)	238回	250回 以上	499回		350回 以上	
		他社WEBサイト	68回	10回 以上	205回		20回 以上	
2	能楽等や能 舞台、能舞 台の歴史・ 魅力を発信 する事業数	オープンドー	1回	1回	1回		1回	
		定例見学会	9回	7回	7回		9回	
		特別見学会	3回	3回	4回		3回	
		バリアフリー 見学会	2回	2回	2回		2回	
		多言語対応 見学会	2回	1回	1回		2回	
		学校見学会	6回	6回	5回		6回	
		旅行企画見学会	0回	0回	1回		2回	
		和のものづくり、 ワークショップ、 見学会	10回	4回	8回		6回	
3	アフターコン ベンションの アプローチ 件数	問い合わせ、 見学	3回	5回 以上	7回		7回 以上	
4 ★	「伝統文化一日体験オープンデー」 参加者数	725名	400名 以上	1,156名			450名 以上	
5 ★	「和のワークショップと能楽堂見 学」初来館率	28%	40% 以上	30.1%			50% 以上	
6 ★	横浜能楽堂の市民認知度	59.8%	65% 以上	60.9%			70% 以上	
7 ★	「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」での 連携取組	—	5件以上(2 年間累計)	3件			12件以上 (5年間累 計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績		
1	広報手法の 分析	R4実績	分析手法についてリサーチを検討	
		R5達成指標	実施	
		R5実績	狂言堂動画配信の際、SNSコンサルタントによる支援により、効果的な発信を行い 効果分析を行いました。	
		R6実績		
		R7実績		
		R8達成指標	実施	
		R8実績		
2		R4実績	企業・旅行業者からの問合せ3件	

アフターコンベンションメニューへの意見	R5達成指標	旅行会社、会議運営会社、横浜コンベンションビューロー他から意見聴取し、メニューに反映
	R5実績	休館のため当該実績なし
	R6実績	
	R7実績	
	R8達成指標	旅行会社、会議運営会社、横浜コンベンションビューロー他から意見聴取し、メニューに反映
	R8実績	

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

OTABISHO 横浜能楽堂で横浜能楽堂を紹介したり、市内各所での公演の際紹介映像を流すなどで魅力を伝えるほか、引き続き Instagram を中心とした SNS で情報を発信し、従来より若年の層に向けて広報を行います。

また、MICE 関係者や観光事業者などと意見交換を通じて、横浜能楽堂や能舞台、能・狂言の魅力を認識してもらい、再開館後の利用に繋がるよう関係を構築していきます。

令和 7 年は、能舞台創建 150 年を迎える年のため、地域資源として市民に今まで以上に認知されるよう、公演事業や講座事業で文化遺産としての能舞台についても紹介していきます。

(5) 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0 件	0 件	0 件			0 件	
2	法定点検等の実施率	100%	100%	100%			100%	
3	修繕予算の執行率	24.6%	90%	30%			90%	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R4実績	アンケート自由記述欄を参考に、大規模改修の要望等検討
		R5達成指標	アンケート(来場者&施設利用者)、施設利用者インタビュー実施
		R5実績	施設利用者アンケート実施:16 団体 来場者アンケートより:「和式トイレを残してほしい」という要望に対し、改修工事に反映しました。
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	アンケート(来場者&施設利用者)、施設利用者インタビュー実施
2	管理運営費推移の要因分析	R4実績	空調の運用見直し、植栽管理や設備管理の委託項目の精査を行った。
		R5達成指標	毎年度半期毎に分析実施
		R5実績	光熱水費についてモニタリングで推移と要因を報告
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	毎年度半期毎に分析実施
		R8実績	

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

横浜市、工事業者と情報を密にやりとりするための連絡者会議に参加します。

令和7年度 横浜能楽堂会計 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	移転費 (B)	合計 (C=A+B)	補正 (D)	予算現額 (E=C+D)	決算額 (F)	差引 (E-F)	説明
指定管理料	172,545,000	16,888,000	189,433,000		189,433,000		189,433,000	
利用料金収入	0	0	0		0		0	
自主事業収入	7,952,000	0	7,952,000		7,952,000		7,952,000	ショッップ収入含む
雑入	11,305,000	0	11,305,000		11,305,000		11,305,000	
自動販売機手数料	0	0	0		0		0	
その他（コピー代、炭代）	0	0	0		0		0	
その他（開催協力金・助成金）	11,305,000	0	11,305,000		11,305,000		11,305,000	助成金見込
その他（企業協賛金、寄付金）	0	0	0		0		0	
収入合計	191,802,000	16,888,000	208,690,000		208,690,000		208,690,000	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	移転費 (B)	合計 (C=A+B)	補正 (D)	予算現額 (E=C+D)	決算額 (F)	差引 (E-F)	説明
人件費	91,608,000	0	91,608,000		91,608,000		91,608,000	
給与・賃金	76,480,000	0	76,480,000		76,480,000		76,480,000	ショッップアルバイト13名（347日）含む
社会保険料	9,502,000	0	9,502,000		9,502,000		9,502,000	
通勤手当	3,032,000	0	3,032,000		3,032,000		3,032,000	
健康診断費	33,000	0	33,000		33,000		33,000	
勤労者福祉共済掛金	54,000	0	54,000		54,000		54,000	
退職給付引当金繰入額	2,507,000	0	2,507,000		2,507,000		2,507,000	
事務費	3,805,000	18,285,000	22,090,000		22,090,000		22,090,000	
旅費	324,000	0	324,000		324,000		324,000	
消耗品費	1,031,000	0	1,031,000		1,031,000		1,031,000	
広告宣伝費	0		0		0		0	
印刷製本費	15,000	0	15,000		15,000		15,000	
通信費	1,147,000	920,000	2,067,000		2,067,000		2,067,000	
使用料及び賃借料	909,000	14,498,000	15,407,000		15,407,000		15,407,000	
横浜市への支払分	0		0		0		0	
その他	909,000	14,498,000	15,407,000		15,407,000		15,407,000	事務所家賃、倉庫代
備品購入費	0		0		0		0	
図書購入費	0		0		0		0	
施設賠償責任保険	0	127,000	127,000		127,000		127,000	
職員等研修費	0		0		0		0	
振込手数料	264,000	0	264,000		264,000		264,000	
リース料		0	0		0		0	
手数料	85,000		85,000		85,000		85,000	
負担金、会費	0	190,000	190,000		190,000		190,000	
雑支出	30,000	0	30,000		30,000		30,000	
その他	0	2,550,000	2,550,000		2,550,000		2,550,000	移転準備費
事業費	48,808,000	0	48,808,000		48,808,000		48,808,000	
自主事業費	48,808,000	0	48,808,000		48,808,000		48,808,000	
管理費	14,870,000	6,803,000	21,673,000		21,673,000		21,673,000	
光熱水費	0	2,450,000	2,450,000		2,450,000		2,450,000	
電気料金	0	2,450,000	2,450,000		2,450,000		2,450,000	能楽堂光熱費、事務所電気代
ガス料金			0		0		0	
水道料金			0		0		0	
清掃費			0		0		0	
修繕費	0	0	0		0		0	
機械警備費			0		0		0	
設備保全費	14,870,000	4,353,000	19,223,000		19,223,000		19,223,000	
空調衛生設備保守	0	0	0		0		0	
消防設備保守	0	0	0		0		0	
電気設備保守	0	0	0		0		0	
害虫駆除清掃保守	0	0	0		0		0	
駐車場設備保全費	0	0	0		0		0	
その他保全費	14,870,000	4,353,000	19,223,000		19,223,000		19,223,000	横浜能楽堂施設管理等
舞台技術費	0	0	0		0		0	
共益費	0	0	0		0		0	
公租公課	8,106,000	0	8,106,000		8,106,000		8,106,000	
事業所税		0	0		0		0	
消費税	8,082,000	0	8,082,000		8,082,000		8,082,000	
印紙税	8,000	0	8,000		8,000		8,000	
その他	16,000	0	16,000		16,000		16,000	
事務経費	16,405,000	0	16,405,000		16,405,000		16,405,000	
本部分	16,405,000	0	16,405,000		16,405,000		16,405,000	財団本部繰入金
当該施設分	0	0	0		0		0	
支出合計	183,602,000	25,088,000	208,690,000		208,690,000		208,690,000	
差引	8,200,000	-8,200,000	0					